

国労第 94 回定期全国大会 書記長集約要旨および運動方針案の採択

(第 94 回定期全国大会 2 日目午後)

書記長集約

【2025 年 7 月 28 日(月)】

○ **岩元書記長** 2 日間にわたる討論、たいへんありがとうございました。経過で 4 名、方針で 11 名、合計で 15 名の代議員から最重要課題である組織強化・拡大の報告、職場における取り組みと闘いの報告、安全問題や公共交通など様々な問題について発言がありました、また本部に対する意見や質問もありましたので集約の中で答えさせていただきます。

まず組織のあり方についてであります。代議員からエリア・地方の組織を維持することも困難になってきているとの報告とともに、JR 世代の代議員からは現在の全国組織を全体の知恵を出し、維持してもらいたいとの発言がありました。

同時に、国労が存在することだけが目的ではなく、しっかりと国労運動をやっていかなければ労働組合としての存在意義はないとの発言がありましたが、強く受け止めたいと思います。

春闘の戦術についても、様々な発言がありましたが、戦術の判断については、しっかりと現場の組合員の声などを掴みながら決定していくことには変わることはありません。

公共交通・ローカル線を守る闘いについては、国労に課せられた課題として、継続的な取り組みが必要という視点は、本部も多くの代議員の発言と同様の考え方であり、何ができるのか検討していきたいと思えます。

組合員資格についての質問がありましたが、規約 27 条に基づき対応をしています。また上申のあったものについては議論をしているところです。

一方、組織再編に伴う全国代表者会議への出席者についての質問もありました。基本的には地方本部代表となりますが、再編に向けての過度期であり、取り扱いについては検討させていただきたいと思えます。

先の第 195 回拡大中央委員会の中で、「つながる」ということを意識して組織拡大運動・25 春闘を取り組んでいくと言わせていただきましたが、しっかりと意識して取り組むことができたでしょうか。今一度検証しながら、再度、全体で「つながる」ことを意識して取り組みを進めていきましょう。

1 点目に、最重要課題である、国労運動の継承と組織の強化・拡大についてですが、大会までに様々なエリア・地方の取り組みにより、全国で 13 名の拡大を勝ち取っていただきました。特に J R 世代の加入が多くありましたが、職場で少数であっても国労組合員が頼りにされていることの現われだと感じます。

しかしながら、組織人員が減少していることも事実ですから、この間、エリア・地方では組織の再編などを行いながら足場を固め、J R 世代が組織を担っていける体制づくりを進めてきました。

今後の国労組織についてですが、現状の組織形態を当面維持していきながら、J R 世代とともに闘う体制づくりが求められています。

すべての運動を引き継ぐことは困難であり、組織人員の減少は組合費収入にも直結してくる問題ですから、現状を見据えながら、そうした課題を克服していくための議論を早急にする必要があります。組織は人ですから学習と交流を通して、会社としっかり対峙できる人財の育成に努めていきたいと考えています。

情報をリアルタイムに伝えていくために、情報発信アプリを導入して登録推進と活用について進めてきましたが、全組合員の登録には至っていません。代議員の発言でもエリア・地方独自の活用や課題について出されましたが、全国での運動の状況を共有するために、登録、閲覧、活用と進める必要があります。また組織拡大のツールとしても活用をお願いします。

2 点目は、労働条件改善、安全・安定輸送の取り組みです。

J R 各社において、輸送障害が多発しており、特に新幹線での輸送障害が続発するなど、今まで考えられなかった状況になっています。

事故の原因はさまざま考えられますが、多くの代議員から報告のあった要員不足やマルチタスクも大きな原因の一つだと考えられます。

労働集約型産業である鉄道は長期の安定雇用での技術の習得が必要であることは言うまでもありません。

J R 各社・グループ会社にとって最も重要なことは安全であります。その安全を作っているのは労働者であることを労使で再確認する必要があります。

安全問題についてこの間、国労として総点検を会社に求めていくことを幾度となく確認していますが、まだ十分とは言えません。大会以降、エリアを中心に運動をしっかり作っていくことが求められます。また職場での問題を掴む努力をし、労働者の耳となり、聞いたことをしっかり口に出し、会社との交渉に臨むことが必要です。再度、職場からの運動を作ることを意識して取り組みましょう。

地方公共交通、ローカル線問題については、エリア・地方でも様々な運動を統一行動として取り組んでいただき、代議員からも報告がありました。国労として、採算性や赤字議論だけでなく、JRの成り立ちや公共性、地域における役割などを考えた場合に、利用者・住民・自治体などとともに何ができるのか考えていくことや、国が鉄道を公共交通として位置づけ、公共インフラとして維持することが必要であると発信してきました。

今後も交運労協をはじめ、関係団体と連携を強化し、また国土交通省や政党、国会議員要請等の取り組みを進めていきたいと考えています。

3点目に、25春闘についてであります。JR各社にベア17,000円の要求を提出して闘いを進めてきました。戦術について代議員から様々な発言がありましたが、国労として職場の組合員の声を背景に賃上げに対する組合員の切実な声を背景に交渉を進め、ベアを勝ち取ることはできましたが、物価上昇の中で実質賃金が上がらない苦しい状況が続いています。

生活改善のため持続的な賃上げを勝ち取るため運動を作る必要があります。

また、関連・グループ会社の労働条件改善も大きな課題であり、本体、グループ会社との交渉にさらに国労として連携していくことが求められています。

4点目に、平和と民主主義を守る闘いですが、参議院議員選挙の結果、自公政権は衆参両院において過半数を切ることとなりましたが、「日本人ファースト」などと排外主義や差別を助長する勢力の支持が広がったことについて危機感が増しています。

立憲野党については厳しい結果となったことも事実であり、今後も立憲野党の考えを拡げる運動が重要です。

今年、戦後80年・被爆80年となりますが、世界ではいまだに戦争が絶えず、罪のない多くの市民が犠牲となっています。日本政府が求められていることは「戦争をする国づくり」ではなく、対話による「平和外交での紛争解決」であり、唯一の被爆国としての役割です。

国労は毎年、国労被対協とともに国鉄原爆死没者慰霊式典を組合員カンパの取り組みのもとに実施してきましたが、組織人員の減少とともにカンパの集約も厳しくなってきました。

方針にも記載しているように組合員一人200円を目標としますが、現職、再雇用、関連グループを問わず、全組合員でのカンパ活動の取り組みを再度お願いします。

平和を求める運動は、共闘組織との連携も重要であり、引き続き取り組みを強化していきます。また次世代組合員の学習会・集会への参加体制を確立する必要があります。

この間、「国労フクシマ交流視察学習会」を開催してきましたが、現状を見て感じ考えることは重要であることから、今後の取り組みについて検討していきたいと思えます。

最後に、国鉄労働組合に課せられた課題は数多くあります。また組織が厳しい状況に置かれていることも事実です。そうした現実から目を背けることなく全員の団結で展望を開いていこうではありませんか。

国労運動を引き継ぎ、残すことが重要であり、JR世代は職場の課題に向き合う労働組合を求めています。そのことを意識し、考え、闘いを作り、すべてを組織拡大につなげることを最後にお願いし、第94回定期全国大会の集約とさせていただきたいと思います。

2日間の討論、大変ありがとうございました。

2025年度運動方針(案)の採択

- **中村議長** それでは、これより11名の代議員の発言により補強された2025年度運動方針(案)について、全体の拍手でご承認をお願いいたします。

[拍 手]

- **中村議長** ありがとうございました。2025年度運動方針(案)は承認をされましたので、運動方針(案)の(案)の字を削除願います。